

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	岡山大学	整理番号	1-3-008
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	日本語力の徹底訓練による発想型技術者育成		
申請単位	学部単位		
申請担当者	塚本 真也		
<p>(取組の概要)</p> <p>岡山大学工学部の本取組では、他大学に先駆けて平成7年以来の実施で多大な効果を上げた「日本語力教育」(日本工学教育協会賞受賞、文部科学省事例集採択)を核にして、「発想教育」(日本機械学会教育賞、他受賞)と「MOT教育」を連携させることで、「発想型技術者育成」の教育方法を構築・実践している。発想型技術者を育成するには、「読み、書く、話す」の「日本語力」の徹底訓練が必須条件であるため、まず技術文章に対する学生の根強い反発を解消し、その意識改革を断行した。さらに、日本語力教育はソロバン・習字のように体で覚える実学的側面もあると判断し、20時間の演習問題に繰り返し取り組ませた結果、学生の日本語力を格段に向上させることに成功した。この日本語力教育をベースにして、「発想ツール」による発想教育を習得させたところ、発想ツール訓練は学生にとって新鮮な経験であり、教育効果も非常に高いことが判明した。将来展望として、MOT教育を組み込んだ本取組をさらに充実・拡大し、技術者教育のモデルとなる「発想型技術者育成中核拠点」の形成を目指す。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、岡山大学工学部が、大学全体の豊かな想像力によって考え、旺盛な課題探求能力によって発言し、優れた問題解決能力によって行動する人材の育成という教育目標を、「発想型技術者」の育成に定義し直して、その基礎となる「読む、書く、話す」日本語能力の徹底的訓練を開始したものです。1995年以来、教員や学生の反発を克服して、日本語力教育の必要性への意識改革に取組、問題演習による徹底的訓練を行う、発想教育に成功してきました。</p> <p>この取組は、日本語教育について、共通の課題を抱えている全国の大学に対する先駆的な実践として期待できる事例といえます。まだ、岡山大学全体に行われていないことに問題が残されており、まず、身近なところにおいて、成果が上がることを期待します。</p>			